



「五重塔と神輿」四季の部 銀賞
文京区 小池 基夫

山報
高幡不動尊

想いを胸に生きる

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉田 純 一

私の生まれ育った最照寺は、本堂・客殿の建立から、早いもので三十余年の歳月が流れました。あの当時は寺にとって大きな転換期であり、背後には片道二車線の野猿街道という大きな道路も開通しました。その利便性と引き換えに、二十本を超える柿の木を失いました。また、本堂建設という節目には、長年境内の中心で私たちを見守ってくれた古い桜と柿の木も、断腸の思いで伐らざるを得ませんでした。

幼い頃、あの柿の木のまわりを駆け回り、泥だらけになって姉や友と遊んだ記憶は、今も鮮やかに脳裏に焼き付いています。季節が巡れば当たり前のように花を咲かせ、実を結んでいた樹々が姿を消した寂しさは、言葉に尽くせぬものがありました。しかし、失ったものばかりではありません。かつての桜に代わるように、近くにあった山桜がすくすくと育ち、春になるたび力強く花を満開に咲かせて、私たちの心を慰め励ましてくれるようになりました。かつての景色を懐かしみながらも、そこに新たな命の輝きを見る思いがいたします。

宗祖・弘法大師は『性霊集』にこう記しています。

身は花とともに落つれども、心は香とともに飛ぶ

この言葉は、命の儂さとともに、それ以上に尊い「心の永続性」を説いているように思われます。花が散るように、この世にある形あるものはいつか必ず滅び、愛する人の命もまた尽きるときが訪れます。けれど、その人が遺した想いや願いは、香りのように広がり、やがて天に届いて、私たちの心に生き続けていくのです。

無常を悲しみだけで終わらせるのではなく、受け継いだ想いを胸に、今を丁寧に生きる。その歩みこそが、亡き方への何よりの供養ともなるのではないでしょう

お不動さまの心——(一一二八) 現代の世相から(91) 廣澤隆之

大正時代に小学唱歌として採用された「故郷」は今でも小学校の教材にされ、誰もが口ずさみ愛唱されています。その歌詞は「兔追いし彼の山 小鮒釣りし彼の川」と始まります。ところがこの歌で故郷を懐かしむほとんどの人は兔を追ったり小鮒を釣ったりした体験がないはずですし、しかし、それでもそれぞれの人が思い思いに故郷の山や川を思い出して歌っているのでしょう。その故郷の原風景は里山のふもとに田畑が広がり川が流れる農家が点在する風景ではないでしょうか。都会に住む人さえ、その景色を懐かしみ、この唱歌に思いをこめるのでしょう。

歌詞の二番では「父母」と「友がき」への思いを馳せ望郷の念を募らせ、三番で故郷は「いつの日にか帰る」所であると思ひ浮かべています。このような故郷が滅びゆき、失われているのが現代ではないでしょうか。

明治時代に近代化を進めるために、日本は西洋を範として社会の大変革を遂行しました。富国強兵のために近代工業を發展

させます。近代工業ではそれまでの家内工業と異なり、大規模な工場を建設し、その周辺に労働者の居住地を集中的に作り出す。そのようにして都市が形成されます。必要な労働者は地方の農漁村から集められます。工業が發展するほどに故郷を出て、都会で働く人が増えます。故郷を離れ都会の言葉や生活になじめない人々の心を寂しさや孤独感が襲うこともあります。東京へ出て一旗揚げようという志をもつ若者は「父母」や「友がき」と共に過す安心できる場所が遠く去ってしまった辛さを体験します。石川啄木は望郷の念を少しでも癒やそうと、上京してくる旅客の訛り言葉を聞きに上野駅に出かける思いを歌にしています。当たり前であった言葉が通じない東京では地方の出身者は異邦人であったのです。民俗学者の柳田国男は先祖の位牌を抱いて都市を彷徨する孤独な老人に当時の日本の社会状況を重ね合わせて描写しています。

実は、この近代の工業化が人間の生き方を変えてしまったために、慣れ親しんできた生活が失われ心の拠り所が見失われるという現象は西洋の近代でも起こりました。その状況もある哲学者は「故郷喪失」とも表現しました。工業社会の發展と共に、人々が生きる支えとなる魂の根源が忘れ去られることへ危惧が訴えられるようになりました。

ところがその「故郷喪失」は工業化された都会生活をする人の心の中でできごとです。唱歌「故郷」の世界では「父母」や「友がき」が生活し、そして石川啄木が故郷を感じた訛り言葉が行き交う空間が確実にあります。「山は青き」「水は清き」光景は失われることなく確実にありました。そして田舎の原風景は「いつの日にか帰らん」とする魂の根源の世界なのです。幼い頃からの自分の心身を育んでくれた恵みの場所です。

しかし現代においてこの場所は失われ、消え去りつつあります。異常な大都会への人口集中、とりわけ東京への一極集中によって故郷は忘れ去られ、あるいは見捨てられています。その象徴的な事例が山間部の集落にお

ける空き家問題です。もちろん空き家問題は都市部にも見られますが、山間部では空き家がふえることで共同体は消え去ります。そこに「父母」や「友がき」の生活はなく、伝統的な村祭りも消えつつあります。かつては道普請をし、終えれば手作りの煮物を持ち寄り酒を酌み交わした人々の交わりもありません。そうなれば集落の心の拠り所であった鎮守の杜も、先祖が眠る墓地も見捨てられ、荒れ放題になります。



釈迦如来像・北典生作

共同体における人の交わりを会社組織が代行していました。社員親族の葬儀に同僚の会社員が揃って受付をしたりして手助けをしていました。しかし経済効率が優先する現代ではそのような社員のつながりもありません。村の共同体が消え去り、都会では村の付き合いを模した擬似的な共同体も消え去りました。

このような伝統的な魂の安らぎの場が失われる文化の危機をもたらした原因は何なのでしようか。さまざまな要因が考えられますが、グローバル化とテクノロジーといわれる経済活動や文化の追求が決定的であるように思います。ここではその深刻な状況を述べる余裕がありませんが、世界的に偏った経済活動や社会変革が全世界で魂の根源となる故郷を廃墟にしているように思えます。そして新たな故郷は生み出されていません。

かつて近代工業社会では都会に出た若者が「いつの日にか帰らん」と思い、都会の孤独な寂寥感を慰めた「故郷」が現代では眼に見える形で消えつつあります。これは日本人の文化を形成した深い精神の喪失にもなるでしょう。そして都会でも空き家が増えているように、そこにはかつて心を慰めた共同体はありません。高度経済成長期には村落共

東京一極集中で荒廃する地方の問題は私たちの心の問題でもあります。荒廃した心には祈りのある生活が求められるのです。

- 廣澤隆之先生のプロフィール
- 大正大学名誉教授
- 浄福寺住職

ご奉納御礼

(敬称をすべて省略させていただきます)

幟旗奉納者芳名

(令和七年十一月一日〜令和八年二月三十一日)

- 二本 綾瀬市 炭焼 祭り
- 世田谷区 山中 雅晶
- 世田谷区 山中 晴湖
- 世田谷区

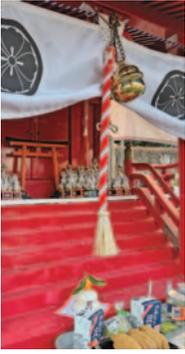
(株)H&Mアセットプラス

- 中野区 山本 民子
- 日野市 橋本 敦
- 日野市 加藤 栄子
- 昭島市 五十嵐 虎孫
- 二本 八王子市 (株)ドルフィン
インターナショナル
- 八王子市 久高 孝行
- 町田市 諏訪 和世
- 長野市 玉井 二千伽
- 長野市 玉井 千比侶

大提灯奉納者芳名

(令和七年十一月一日〜令和八年二月三十一日)

- 日野市 (株)日東鑿井工業所
- 日野市 (株)大塚設備
- 一、品名 稻荷社鈴紐
- 奉納者 日野市 山田 雅之



新客殿・寺務局再建工事資金ご寄進のお願い

当山では客殿の老朽化に伴い、ご参拝の皆様のご安全と利便性を高めるため、長年の懸案でございました新客殿・寺務局再建工事を発願、令和七年春から着工致しました。皆様には事業成満のため絶大な御信援・御協賛を賜りますようお願い申し上げます。

合掌



工事概要

工事名称…新客殿・寺務局再建工事
 工事期間…令和七年四月一日〜
 令和九年三月三十一日

設計監理…株式会社文化財工学研究所

施 工…株式会社藤木工務店東京支店

建物概要…地上三階・鉄骨造・エレベーター完備

建物規模…延床面積 八六九・二四坪

建築面積 三一三・三一坪

主要構成…一階 寺務室・製札作業室・厨房

二階 大広間・多目的洋間・会議室

三階 貴賓室・教学研究所・会議室

事業費…三〇億円

落慶法要…令和九年秋

工事資金勸募…

令和九年三月三十一日まで

一口 一〇、〇〇〇円(何口でも可)

お振込みの方は

さわやか信用金庫高幡不動支店(022)

普通預金 No.0383288

宗教法人金剛寺 代表役員 杉田純一

※ご寄進に合わせ申込用紙を記入いただきご提出を

お願い致します。ご希望の方には申込用紙をお送り

致します。

致します。



東側立面図

《工事の進捗状況》
 解体工事が終了し更地となりました。
 (令和八年一月)



小林 治郎	中島 志麻	羽村市	三鷹市	船橋市	東大和市	文京区	イチカワエイコ
高畑 裕充	高木 龍一	桜沢	谷澤由紀子	井村 泰彦	中村 正	川本 圭一	ササヰワヰ
松崎 隆子	森本 季恵	越谷市	守谷市	相模原市	藤沢市	目黒区	サトウヒデオ
岩崎信一郎	森本 久子	市川 尚也	小菅美紀子	岩谷久美子	村川 誠	石黒 公子	ワタナベサキチ
井上 文夫	武政 智恵	横浜市	浅倉 倫子	鈴木 功	道志村	石黒 良雄	タケタシヨウタ
大澤 哲夫	湯村 幸枝	浅倉 倫子	大久保久吉	永川あゆみ	佐藤久美子	世田谷区	イチムラヒロシ
荻原 和彦	後藤 里美	藤田 好子	小平市	杉本 澄江	井上けい子	立川市	アンドウマモル
日崎 孝彦	中津満壽美	藤田 直純	雪田 光弘	森光 孝雄	日高市	新井竹芸	ニシタニキミエ
坂口 葉子	川久保慶子	坂野 峯子	昭島市	土屋 好弘	新高市	板橋区	ワタナベイゴウ
中村登代子	田中 廣行	浅倉由利江	古里千和子	藤村 直見	板橋区	北村 詩温	ミヅタヒロユキ
八王子市	阿内 聡	立和名桃子	北川 哲雄	杉本 孝行	品川区	井村 真美	カネコセイジ
田代 順彦	細川 勝美	栗原 謙知	新宿区	井上 充	品川区	川鍋 昌代	カトウミチコ
辻医院	畑澤 幸治	阪田 昭風	ミス日本協会	関戸 里美	品川区	坂口 園枝	アカヤマテツシ
辻 和江	石本修一郎	中元 文徳	丹治 正則	足柄上郡	井村 真美	金子 方恵	カトウミチコ
上島 千穂	栗本佐多子	中元 美代	世田谷区	小宮 裕介	府中市	水田 康子	チダマサヒロ
秋田 甫	匿 名	那須烏山市	井上 宏貴	足立区	矢島 隆司	川鍋 照実	クロスヨシエ
石井 敏夫	松永 和代	(有)岡本配送	松尾 正子	塚本隆一郎	内藤 孝	川鍋 昌代	アラカワマサヒロ
石井 菊枝	山本 満子	岩倉市	和田 勲	陳 鸞鸞	石川かつゑ	小野 明美	サトウシヨウジ
草木 克己	太田 和徳	長崎 瞳	西部 純一	中野区	柳井 清	地下 満明	タイラチヅコ
小林 裕子	吉田 安夫	金沢市	野村 学	佐藤 早穂	林田 拓人	匿 名	ヌマタトモコ
大澤 光毅	森下ひろみ	江戸川区	田中 康行	町田市	南 花枝	練馬区	イトウカオル
阿部 二郎	栗原すみ江	江戸川区	西東京市	諏訪 和世	荒木 克子	井口 一宏	マツモトミチコ
多田コナミ	樋口江以子	川崎 圭子	下田トミ子	高山恵美子	渡部 ユウ	深澤 誠司	イトウカオル
加藤佐和子	山崎 久美	港区	藤原 勝子	山田 喜重	小川 壽江	佐野市	カタダイサオ
吉田 光明	梅野ミツ子	橋野由生穂	青梅市	錦貫 豊	小川 壽江	来迎寺	カタダトシコ
(株)米屋守谷	三縄 貴嗣	国分寺市	登坂 昭枝	和田 勝	真橋ひとみ	武蔵村山市	カワシミヨシナオ
富藏商店	三縄 託士	小泉 信一	島岡 好子	金子 積由	(株)サドワラ	春耕俳句会	サカモトモリヨシ
儀部 信恵	松尾タケ子	長谷川幸恵	川越市	楠田 清	三橋 鉄雄	クワハラマサコ	ナカハラハジメ
匿 名	矢嶋千恵子	寺西 敦	山本 恵一	関口 郁子	武蔵野市	シフヤケイジ	イシダマキ
佐藤 茂	あきる野市	国立市	川崎市	津田 義丈	藤原 宗賢	フカザワイズミ	
松本 英章	平野美恵子	西田 幹雄	松本 健二	町田 弥生	福生市	ミネオノリコ	
染谷 昌明	さいたま市	座間市	澤田 尚実	東村山市	有田 誠	(有)フクシトソウ	
長谷川 梢	本多 康二	富所 由夏	高師 和夫	藤川 賀月		サカモトムユミ	

お不動様の御姿
御朱印帳

一冊一、八〇〇円



春詣切絵 ご朱印

三月中旬から春詣切絵ご朱印を授与致します。

※一枚一、〇〇〇円
※数量限定





令和八年節分会 豆撒式 タレントの皆さんと 2/3

高幡不動尊
フオトニュース



お稚児さん勢揃い 1/28



常楽会法要 2/15



初不動・だるま市の賑わい 1/28



一斉放水～文化財防火デー～ 1/26



遍照講の皆様による福豆作り 1/22



賑わう初詣の境内 1/1



日野市社会福祉協議会へ 12/25



冬至星まつり法要 12/22



一年間の煤を払いました 12/12



大晦日恒例歳三像のお身拭い 12/31



仏器が輝くおみがき 12/19



アルバイト学生さん達の活躍 1/28

春の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◇三月

- 8日(日) フリーマーケット
- 15日(日) ござれ市(がらくた市) 〈雨天決行〉
- 20日(祝) 春分の日 彼岸会法要(午前七時) 大日堂
- 21日(土) 弘法大師正御影供 〈午前七時〉 大日堂

月例写経会(午後一時三十分)

- 24日(火) 千体地藏尊月例法要(午後二時)

- 28日(土) 月例祭(ご縁日)

◇四月

- 8日(水) 花まつり(灌仏会) 〈午前十一時〉

尚 甘茶接待は四月四日(土)〜八日(水)まで行います。

- 12日(日) フリーマーケット

- 19日(日) ござれ市(がらくた市) 〈雨天決行〉

- 21日(火) 月例写経会(午後一時三十分)

- 28日(火) 29日(祝)

春季大祭国宝まつり

◇五月

- 9日(土) 10日(日)

第二十九回ひの新選組まつり

- 10日(日) フリーマーケット

- 17日(日) ござれ市(がらくた市) 〈雨天決行〉

- 21日(木) 月例写経会(午後一時三十分)

- 24日(日) 千体地藏尊月例法要(午後二時)

- 28日(木) 五月大祭

花まつり法要と甘茶接待

四月八日にお釈迦様のお誕生をお祝いする花まつり法要が執り行われます。灌仏会とも呼ばれるこの法要は、お釈迦様がルンビニーでお生まれになったとき龍王が甘露の雨を降らせて祝福した故事にならない誕生仏に甘茶をそそぎます。

当山でも花御堂を飾り、誕生仏に甘茶をそそぎ、お祝いの花まつり法要(灌仏会)が行われます。

甘茶接待 四月四日(土)

四月八日(水)

花まつり法要 四月八日(水)午前十一時

お稚児募集

来る四月二十八日(火)の春季大祭国宝まつりのお稚児を左記の通り募集致します。奮ってご参加下さい。

記

一、日時 四月二十八日(火) 午後一時

一、集合 午前十一時三十分

一、申込 四月二十五日まで

一、冥加料 金壱万円也

(お護摩料、お守り札、稚児袋、お供物、衣裳料、化粧料、軽食(二人前))

一、年齢 三歳〜七歳位まで

一、二準備 服装自由(しき紐・細紐を各一本ご持参下さい)

履物はなるべく草履・足袋をご持参下さい。



春季大祭国宝まつりのご案内

○四月二十八日(火)

春季大祭国宝まつり 世界平和祈願

稚児練供養大護摩修行……………午後一時(不動堂)

○四月二十九日(祝)

千体地藏尊総回向法要……………午前十一時(千体地藏堂)

※奉納神輿練り(地元愛好会奉仕)

出店 がらくた市(骨董市) ほか

◎五重塔仏彫刻拝観は

客殿建設工事に伴いお休み致します

青葉まつり記念法話

・日時 六月十五日(月)午後一時から

・会場 大日堂(聴講無料)

・講師 川崎大師平間寺教学課

川崎大師教学研究所研究員

栃木県那須烏山市 西方寺御住職

佐竹隆信 先生

・演題

「戒律のすすめ」



千体地藏尊総回向法要

左記によって千体地藏尊総回向法要を勤修し、皆様方の諸願成就・万霊供養をご祈念申しあげます。ご知友お誘い合わせてご参拝下さい。

記

一、日時 四月二十九日(祝)午前十一時から

一、会場 塔院千体地藏堂

一、冥加料 金貳千円也(但、お札料)

◎ご回向の塔婆をご希望の方は別に五千円(二体)を添えてお申し込み下さい。



多摩八十八ヶ所巡拝のご案内

当山では昭和四十八年より毎年、四月から十月にかけて多摩八十八ヶ所巡りを実施致しております。巡拝は初めての方でも先達のお坊さんの案内をいただき乍ら月一回の楽しい巡拝が出来ます。ご知友お誘い合せてご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

一、巡拝 毎月第一週の火・木・日曜日

(五月は第二週)

一、会費 六〇、〇〇〇円(七回分) 分割納入も可

(納経料・バス代・保険料等を含む)

一、昼食 各自持参

※詳しくは高幡山寺務局内「龍華会」まで

電話 ○四二五九一〇〇三二番



山内消息

煤払い(12)
師走の空の下、煤払いが行われました。長い笹竹で一年の埃を払い落とせば、心まで洗われるようです。払い清められた御堂でご修行される護摩の炎は、厄を焼き尽くし、凜とした空気に共に、新たな年を迎えることができました。(加藤記)

星まつり

十二月二十二日冬至の夜、五時から不動堂にて星まつり法要を勤修しました。本年は客殿建設に伴い法要後の冬至うどん接待は出来ませんでした。大勢の皆様にご参加いただきました。工事完成後の来年の星まつりには冬至うどんを再開致します。それまでお待ち下さい。(伊大知記)

牛王宝印お授け

一月十五日、牛王宝印のお授けが不動堂にて行われました。年に一度のお授けとあって多くの方がご参拝され、重文のお不動様と同じ材で作ら



牛王宝印のお授け

れた宝印を額にいただき、身体安全、無病息災を祈念しました。(佐竹智記)



総本山 ご内局様来山

総本山御内局来山(1/20)

京都の総本山より三神宗務総長をはじめ真言宗智山派御内局総勢七名が来山されました。総本山にて元日にお加持された御護摩札をお持ちいただき、新年のご挨拶をいただきました。その後、ご一行は大本山高尾山へ向けて出発なさいました。(中見記)

消防演習

一月二十六日、文化財防火デーにあわせ消防演習を実施しました。五重塔から出火しました想定で演習がはじまりました。日野消防署、日野市消防団、地元三商店会、出入り業者、祭礼実行委員会の皆様のご協力をいただき、高幡山自衛消防隊も参加し、最後は五重塔へ向けての一斉放水にて終了しました。(杉田記)

「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」

平成四年に出版された「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」を再編したものです。お大師様の信仰を深め八十八ヶ所巡拝をされてはいかがでしょうか。



一部 1,000円

※ご希望の方には郵送致します。

電話 〇四二五九一〇〇三二

龍華会まで

御詠歌始めませんか

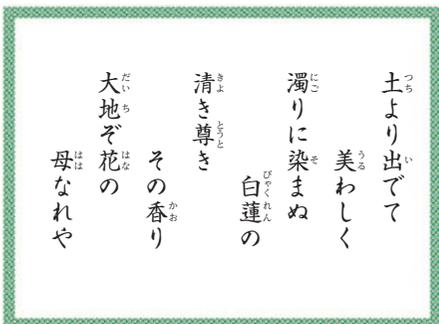
『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会・花まつりなどの法要でお唱えます。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集します。ので、大勢様ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 一、名 称 遍照講高幡山支部
 - 一、参加資格 どなたでもご参加いただけます
 - 一、指 導 密厳流遍照講師範
 - 一、会 費 一ヶ月 三,〇〇〇円
- (但し、鈴・鉦などの道具は別費)
- 一、稽古日時 月二〜三回 午前十時〜十二時
- お問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」

電話 〇四二五九一〇〇三二



「密厳国土和讃」

節分会

本年はお天気に恵まれ大勢の年男様にご参加頂きました。特別参加された方は、菊川怜さん、つのだ☆ひろさん、大和田伸也さん、寺泉憲さん、藤原浩さん、其原有沙さん、岩崎愛子さん、佳つ笑さん、佳つ秀さん、二〇二六ミス日本の皆さん、ハローキティの皆様です。

俳優 菊川 怜

年男として節分の豆まきに参加させていただき、とても嬉しいです。皆さまに福がたくさん降りそそぎますよう、お祈り申し上げます。



菊川 怜さん

歌手 つのだ☆ひろ
毎年恒例となりました。今年には東日本大震災から十五年です。今日は東北の方々にも高幡不動から福を届けたいと思います。皆様元気に、そして未来に向けて 福はうち!!

俳優 大和田伸也

今回初めて参加させて頂きました。境内の素晴らしさには感動。快晴の中、気持ち良く豆まきをしました。皆様の平和と幸福を心よりお祈り申し上げます。

俳優 寺泉 憲

今年も節分会に年男としてお招き頂き幸せです。皆様の健康と幸福を願って豆を撒かせて頂きました。年の数の福豆を食べると良いと言われてますが、後期高齢者には多すぎるので、せめて恵方巻をかじらせてもらいます。今年の恵方は南南東とか。笑門来福

歌手 藤原 浩

毎年、豆まき式に参加させて頂きまして有難うございます。今年も皆さまの健康を祈願して 天高く!!福は〜内!!

感謝 合掌



つのだ☆ひろさん

二〇二六ミス日本グランプリ
二〇二六ミス日本「海の日」
野口 絵子
これまでの節分と違い「届ける側」に立つ事ができ一生物の経験になりました。誰よりも喜んでくれたのは、私の姿を見に来てくれた家族だと思えます。日本の行事が、この様に昔から受け継がれている事に、改めてその大切さに気がきました。

二〇二六ミス日本「水の天使」
志村 美帆

来て下さった方々の笑顔がはつきりと見えました!お天気も良く、充実した一日となりました。豆まきは意外と肩が疲れるのですが、遠くまで投げることを意識しました。

二〇二六ミス日本みどりの大使
永田 愛実

多くの方の笑顔と名前を呼んで頂いた温かい声に囲まれより一層節分行事の意味と日本の伝統の大切さを実感することができました。人生で一番の節分でした!!

二〇二六ミス日本ミス着物
平嶋 萌宇

歌手 岩崎 愛子
本年も沢山の方々がお越しください、皆様の笑顔が花咲く節分会にお招きいただき、豆まきさせていただいて感謝の気持ちでいっぱいです。
京舞妓 佳つ秀
三年ぶりに豆まきに寄せて頂きました!とても天気がよく、たくさんの方に来て頂けて嬉しおした。

幼稚園の頃の怖い鬼がやって来る「豆まき」は自分にとって苦い行事でしたが、今回「福を招く」素敵な行事という印象に変わりました。皆様本当に温かい方々ばかりで逆に沢山の福とパワーを頂きました。

二〇二六準ミス日本
正木 由優

とてもとても楽しかったです。名前を呼んで下さる方も多くいらして嬉しい気持ちになりました。就任後初の行事でしたが、改めて自分の役割を再認識できました。



大和田 伸也さん

諸行事に参加して

交通安全祈願

川口市 中山 健二

昨年引き続きお世話になりました。一年の始まりを感じることができました。身が引き締まる思いでいっぱいです。今後も引き続き宜しくお願い致します。

小平市 前田 和樹

大変素晴らしい経験をさせていただきました。今年の無事故無違反を目指す上で、とても良いスタートを切れたように思います。

二十歳詣

光山 沙良

上京して二年が経ち、二十歳という節目の年を迎え、大人への仲間入りを実感していますが、大学生活を通じて多くの方と関わる中で、まだ自分は未熟だと感じる瞬間も多くあります。今年には三年生となり、就職活動が始まる年で

もあります。自己実現のための努力に加え、自立した大人になるための準備を進めていきたいと思っています。

齋藤 千紘

二十歳を迎えてからの一年は、挑戦することを常に心がけてきました。大学生活が残り半分となり、自分が本当にやりたいことを見極める大切さに気付きました。様々なことに取り組み中で、計画力が身に付いたと感じています。新しく始めたボランティア活動で多様な背景を持つ人たち

と出会い、とても充実した一年になったと思います。次の一年は、与えてもらった学びや支えを、行動を通して周りに返していきたいです。

牛玉宝印お授け(1/15)

武蔵村山市 義澤 浩一

初めての体験で、とても優しい感じでした。想像よりも大きかったのでビックリしま

した。なんだか頭痛が治りそうです。

板橋区 井上 康子

とても有難かったです。去年は病気になってしまい、まだ治療しています。今年には完治出来ることを願っています。

新座市 三浦 弘樹

貴重な体験をさせていただける日に参加させていただき有難く、力をいただいた気持ちになりました。

板橋区 川野 涼子

とても貴重な日に来られて良かったです。今年一年も健康で楽しく暮らせると思います。ありがとうございます。

稚児行列(1/28)

日野市 有山 裕美

貴重な機会をいただき、ありがとうございます。この子の父親もお世話になったので、代々の伝統となり嬉し

八王子市 今川 湊斗

高幡不動尊様には、ほぼ毎日のように通っており、お護摩祈願参詣にもよく来ております。今日は息子もお稚児さんに参加できて、とても良い経験になったと思います。ありがとうございます。

八王子市 井上 瑚都

迷惑をお掛けしましたが、とても良い経験になりました。本人もはじめは、とても戸惑っていましたが、お化粧や着物でお姫様気分になりました。ありがとうございました。

府中市 桐内 奏空

ちょうど三十年前に母である私がお稚児さんとして参加し、三十年振りに息子に参加

させる事ができて、とても嬉しく思います。貴重な体験をする事ができて一生の思い出となりました。また二年後には弟を参加させたいと思います。



福豆を煎る園児さん

豆煎式(1/31)

日野わかき幼稚園 小島 智美

この度は、親子で高幡不動尊の豆煎りに参加させていただき有難うございました。

歴史ある境内の厳かな雰囲気の中、御護摩祈禱や、娘が豆を煎る姿を見て、その成長ぶりに胸が熱くなりました。日本の伝統的な行事に親子で触れ合えたことは、一生の宝物となる素晴らしい思い出です。



初不動大祭のお稚児さん

豆を混ぜる音や香ばしい豆の香りも心地よく、貴重な体験を娘に贈ることができ、大変有意義な一日となりました。

日野わかき幼稚園 菅原 麻美
我が子が幼稚園の代表として初めて豆煎り式に参加致しました。塗香の香りや境内に集まるお坊様の姿に、私自身が幼稚園の頃に参加した当時の記憶がよみがえり、懐かしさを覚えました。お坊様に抱き上げていただき、しゃもじを手にしたときの情景は何十年経った今でも心に残っています。由緒ある行事で、節分の豆を煎るという大役を親子で勤めることができ、忘れられない一日となりました。

お手伝い

交通祈願所 直井 葉月
私が今回の経験を通じて感じたことは、伝統を守ることの大切さです。家に当たり前にお札が置かれているけれど、そこにとのよな意味が込められているのか、由来は何かなど考えたこともなかったの

で、我々の世代こそがちゃんと自文化の意味を理解し、受け継いでいかなければ途絶えてしまうと感じました。私は海外の方と関わることで多いので、胸を張って紹介できるようになろうと思います。

御札渡所 立野 桜成
御札渡しは、御祈禱後の御札運びからはじまる多様な業務があり大変でした。しかし、皆様が新年の願いを胸に笑顔で御札と共に帰っていく姿、その様な何気ない場面に御札渡しのやりがいを感じました。

御札渡所 南 菜央美
初めての高幡不動尊でのアルバイトで緊張していました。が、職員や先輩、共に働く皆様の優しさに支えられ、楽しく働くことができました。御札渡所でご一緒させて頂いた皆様に心より感謝申し上げます。忙しいながらも高幡不動を愛する人々の温かさを感じ充実した年末年始を過ごすことができました。また是非参加させて頂きたいです。

募金の御礼とご報告

高幡不動尊金剛寺執事

平成九年以降皆さまから寄せられました各種募金の合計は左記の通りでございますので御礼旁々ご報告申し上げます。

尚 ユニセフ関係募金(〇印)は合計一、五一五万円になっております。

各種募金総計表 (令和8年2月25日現在)

インドハンセン病救済金	(21回)	15,900,000円也
阪神大震災救済金	(4回)	4,104,039円也
トルコ大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
台湾大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
三宅島災害救済金	(2回)	2,000,671円也
インド大地震救済金	(1回)	512,609円也
○イラン大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
カンボジア小学校建設資金	(1回)	100,000円也
ラオス教育振興資金・井戸掘削援助資金	(1回)	800,000円也
新潟中越地震・中越沖地震救済金	(3回)	3,100,000円也
○スマトラ沖地震大津波災害救済金	(1回)	200,000円也
スリランカ・スリジナラタナ社会福祉協会	(1回)	1,030,000円也
○アフガニスタン児童教育援助金	(7回)	5,500,000円也
○アフリカ緊急募金	(19回)	7,700,000円也
パキスタン北部大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
ジャワ島地震救済金	(1回)	1,000,000円也
能登半島沖地震救済金	(1回)	250,000円也
○ソロモン諸島沖地震救済金	(1回)	250,000円也
○ミャンマー大洪水救済金	(1回)	500,000円也
四川省大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
読売愛と光の事業団社会福祉事業基金	(1回)	300,000円也
スマトラ・サモア地震救済金	(1回)	200,000円也
中米ハイチ大地震救済金・チリ大地震救済金	(3回)	1,300,000円也
宮崎県口蹄疫被害畜産農家救済金	(1回)	1,000,000円也
日野市社会福祉協議会への寄附	(27回)	8,100,000円也
東日本大震災救済金	(18回)	32,000,000円也
ネパール大地震救済金	(1回)	1,000,000円也
熊本地震救済金	(4回)	5,000,000円也
西日本豪雨災害義援金	(1回)	1,000,000円也
令和元年台風15号・19号災害義援金	(1回)	1,000,000円也
ウクライナ人道危機救済金	(1回)	500,000円也
2023年トルコ・シリア地震救済金	(1回)	500,000円也
2024年能登半島地震災害救済金	(2回)	7,470,459円也
総計	(132回)	107,317,778円也

奥殿だより 第十五回

不思議な絵師 田公実

(その三)

(承前)

前回、当山所蔵の田公実の作品の中には、當山第二十九世賢雅和上の姪である木田由美が寄附したものが、花鳥画の中には含まれている可能性について推測した所です。

昨年から、他所では殆ど所蔵されていない田公実作品の展示を、奥殿で継続してきておりますが、十二月一日の展示替の際には、昨年新発見された當山の不動三尊の素描の展示を始めております。

点数が多いので、現在展示されていない作品については、

次の展示替で展示する予定でおります。上部に掲出の写真三点は、以前から知られていた作品ですが、昨年新発見されたのは不動明王像素描一種二点、制多迦童子像素描一点、矜羯羅童子像素描二種三点、以上計六点です。

制多迦童子像淡彩は、制多迦童子像素描一を土台にして加彩した物です。同素描二は頸部のしわの描写が若干異なります。不動三尊像全てで、頸部のしわの描写に二種あります。

矜羯羅童子像墨彩は、同素描一及素描二を一枚に纏めた



制多迦童子像 淡彩



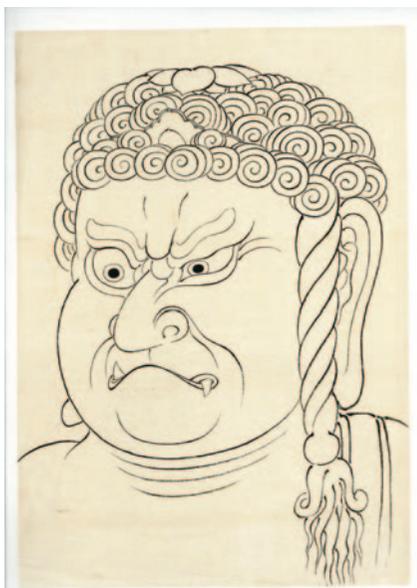
制多迦童子像 素描一



矜羯羅童子像 墨彩



制多迦童子像 素描二



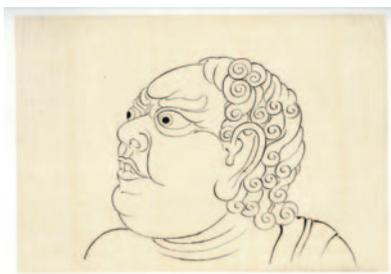
不動明王像 素描

ものようです。但し頸部のしわは、写真を紹介しなかった素描と同一のもので、素描、墨彩、淡彩と制作過程の途中の異なる作品が遺されており、未だ発見されていない不動三尊像制作に向けて、田公実が準備を進めていた事を窺わせる資料でありましょう。

千葉県芝山町観音経寺の芝山仁王尊像は、墨彩の仁王尊



矜羯羅童子像 素描一



矜羯羅童子像 素描二

像と共に安政四年(一八五七年)當山で完成させた作品が遺されており、

或は、不動三尊像も完成に向け準備を進めていたのでしょうが、未だで終わってしまっ

たのかも知れません。(未完)

(藤井和夫記)

高幡いきもの曼荼羅 ③4

このコラムを書き始めて何度目の冬を迎えました。異常な夏の暑さの後は異常な少雨と乾燥で、いつもなら芽を出す筈の藁の藁すから見つけることが出来ませんでした。とはいえ冬に出会える鳥たちは今年もやって来て私達を和ませてくれます。その年々で見られる鳥の種類は若干入れ替わりますが、長い目で見ると季節によるいきもの達のサイクルに変化はないように思います。

私達人間は自分の経験に基づき環境を押し量ります。たまに経験したことのない出来事に遭遇するとそれが万象の総てであるように捉えがちです。自然のサイクルはそんな人間の個々の事象に拘わらず延々と新陳代謝を繰り返します。時にはカラストロフが訪れるかも知れませんが、それが自然であり、地球の営みなのです。

ただそれに対して私達は手をこまねいているばかりで良いのでしょうか。何故人間が言語を持つようになり、科学や文化、宗教を発展させてきたかを考えるとそれは明らかだと思います。

高幡不動尊のような歴史のあるお寺は、その境内や建物に過去の出来事や自然の摂理の

なにげなくつかっている仏教のことば―化身(けしん)

現代では「彼女は慈愛の化身だ」というように、ある抽象的な性質を人格化して表現する際にこの言葉を用います。

もともと仏教においては、仏が人々を済すため、相手の性質や状況に応じて姿を変えて現

情報がインプットされています。そして私達がお寺や神社に参拝する時、知らず知らずのうちにその情報に触れることが出来るのです。春にお堂の前で手を合わせていると、堂内からは僧侶が唱えるお経が聞こえ、境内ではウグイスの鳴き声がして、桜の花が目を楽しませてくれます。或いはサカキの花のような特徴ある香りがするかも知れません。それが私達が生きている証であり、得難い信仰の体験なのです。



珍しいサンショウクイ



青が鮮やかなルリビタキ



木の実を啄むツグミ



愛らしいジョウビタキ

お不動さま教えて？

ご質問 高幡のお不動さまの仁王門をくぐった左手に、手水舎(ちようずや)があります。そこには「洗心(せんしん)」と彫られた石の水器が置かれ、吊るされた手ぬぐいにも同じく「洗心」と記されていることに気づきました。そこでお尋ねいたします。この「洗心」には、どのような意味があるのでしょうか。気になりましたので、どうかお答えください。

はい、お答えします。お不動さまの境内には、仁王門をくぐってすぐ左に手水舎があります。手水は参拝に先立ち、手を清め、口をすすぎ、身心の汚れを洗い浄めるための作法です。しかし、この作法は単に手や口を清めるといふ外面的な意味にとどまりません。私たちの心を静かに整え、日々の曇りである煩惱を洗い流す行でもあるのです。



真言宗では、仏のはたらきと私たちの行いが一体となる「三密」の修行を説きます。すなわち、身密・口密・意密の三つです。手水の作法は、まさにこの三密の実践ともいえるでしょう。

まず、柄杓を取り、手を清める所作は「身密に通じます。身体を整えることによって、心もまた自然と落ち着きを取り戻します。次に、口をすすぐ所作は「口密」を象徴します。日々の言葉遣いを省み、他者を傷つける言葉や、自らの心を曇らせる言葉を慎むことの大切さを思い起こさせます。そして、水の清らかさを感じながら自らの内面を見つめ、心の波立ち、すなわち煩惱を静めていく。これが「意密」に通じるところです。

「洗心」とは、本来の清らかで澄みわたっている心を取り戻すことを意味しています。手水舎は、三密の修行を静かに始めるための小さな道場ともいえるでしょう。三密の修行は、特別な場所や時間を必要とするものではありません。誰もが今この場から始めることができます。高幡のお不動さまを訪れた折には、どうぞ手水舎の前でひととき足を止めてみてください。「洗心」の二文字が、皆さまの日に静かな光をもたらしますことを願っております。

(小林靖典)

く 献花のおすすめく

お花講講員の募集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。大勢様ご入講下さいますようご案内申し上げます。

記

- 一、名称 高幡山お花講
- 一、会費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。

不動室内陣献花



大覚寺門跡推薦教室 いけばな嵯峨御流

〔第9回〕



大華道祭 4月9日(木)~12日(日)

平安時代初期、嵯峨天皇が檀林皇后とのご成婚の新年である離宮を建立されました。その嵯峨院が大覚寺となりましたのは、貞観一八年(八七六)。嵯峨上皇の長女で、淳和天皇の皇后であった正子内親王が、御願上表に当たり、菅原道真公の起草文を基とした奏請の文を上奏され、清和天皇より「太后の御願の通り、額を賜い大覚寺と称す。天下に頒行せよ。」と詔勅されました。そして嵯峨上皇の御皇孫である恒貞親王がご出家され恒寂入道親王と号し、大覚寺開山の祖となられ

ました。本年令和八年(二〇二六)は、大覚寺として開創されてより一一五〇年という勝縁の年であります。(大覚寺印より引用)
毎年四月中旬に三日間開催されます「嵯峨天皇奉獻華道祭」は、大覚寺寺号勅許一一五〇年を記念して、この度は「大華道祭」と銘打ち、規模を拡大いたします。四月九日(木)より十二日(日)の四日間開催されます。春爛漫の寺内各処を彩る嵯峨御流のいけばなの数々を、嵯峨野の地にてぜひご堪能ください。

嵯峨御流華道芸術学院教授
納富貴甫

御◆案◆内

交通安全祈願

午前九時〜午後四時半
午後四時半までにお申込下さい。

御護摩修行

- 平日 八時・十時・十一時半・一時・三時
- 土曜・日曜・祝日 八時・十時・十一時半・一時・二時半・四時
- 但し一日、十五日の午前中は五時・十時・十一時半
- ご縁日(二十八日) 五時・九時・十時・十一時・十二時・一時・二時半・四時

御護摩料

金五、〇〇〇円也
金七、〇〇〇円也
金一五、〇〇〇円也
(大護摩)金三〇、〇〇〇円以上
ご縁日〓毎月二十八日
境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市)

毎月第二日曜日(雨天中止)
ござれ市(がらくた市)
毎月第三日曜日(雨天決行)
お焚き上げ

月例写経会

毎月二十一日午後一時半
千体地藏尊月例法要
毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館)

午前九時〜午後四時
拝観料 五〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観

午前九時〜午後四時
参拝料 三〇〇円

(月曜休館)

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

今年の一・二月は、晴れの日が続き、初詣、初不動、節分会等、大勢の皆様にご参詣いただき有難うございました。境内では春の花が続々と咲きはじめ、皆様をお待ちしております。

イタリヤでは、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催され、日本選手の活躍もあって連日大いに盛り上がり、テレビでは出場選手のストーリーも紹介され、深い感動もいただきました。その余韻も冷めやらぬ間に、六月にはサッカーワールドカップ北中米大会がはじまります。睡眠不足には気を付けたいですね。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別格本山
高幡山金剛寺

電話 (042)591-0032(代)
FAX (042)593-3038

発行人 黒川高徳
編集人

年4回発行・再生紙使用